

出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

代表者氏名：

横田 将志

計画立案メンバ氏名：

垣塚 太志、浦井 健次



企画報告書

概要

産業の立場として求められるリーダーになるために大学院生の今、しておくべきことというテーマでセミナーを開催した。講師には、研究開発の現場から、大企業の経営までを経験された西岡氏をお招きした。前半には、スライドを用いて、西岡氏の経験を中心にお話しいただいた。後半は、学生からの質問をもとに、自由に議論を行った。大学院生にとって、今行っている研究の経験というものを今後どのように活かしていくべきかを考えさせられるいい機会となった。

企画で得られた収穫

西岡氏というビジネスの現場で活躍される方のお話には、普段はあまり考えないような発見があった。そのなかでも、人と人のコミュニケーションというのはどの世界で生きる上でも重要であるということを再認識させられた。また、西岡氏の経験談からは、自分の信じることに妥協しない姿勢の大切さが伝わってきた。またそれは、ぶれずに自分の考えを信じ続けることができるだけの根拠を持つことができたからこそなしえたのである。その根拠は、普段から自分が納得するまでとことん考え抜いた結果持つことができている。私たちも考え抜く癖を身にいつけていきたいと思う。

感想・反省点・今後の改善点

今回のセミナーでは内容を西岡氏に任せっきりになってしまい、こちらが意図していた内容と少し異なってしまった。事前にもう少し、このようにしてほしいという要望を伝えることをしていれば、このようにならなかったと思う。

西岡氏のようなビジネスの世界で成功された方とビールとハンバーガーを手に話をするような会を行うことができたことは非常に良い経験になったと思う。

参加報告書

氏名：横田 将志

所属：生命研究科

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

西岡先生の経験を学生時代から企業の社員時代、社長時代、現在とお聞きし、そのものを言う姿勢と、常に考えることの重要性を再認識した。特に考え続けるということは、まさに今、大学院生の中に癖をつけ力をつけておくことが大切である。

西岡先生のお話は、聞き入ってしまうもので、企業を率いていく人にはこのような不思議な魅力が必要なかもしれない。また、同僚を尊敬し、その仕事をたたえる姿勢は、非常にすごいと感じた。先生のお話には一流の仕事をするために必要な要素が散りばめられていた。今後、今回のセミナーで感じたことを身につけることができるように努力をしていきたい。

感想・反省点・今後の改善点

西岡先生のお話は非常に楽しく、ためになるものであった。しかし、経験を聞くことはできたが、起業やマネジメントのお話は詳しく聞くことができなかった。座談会になった時にもっと積極的に質問ができれば、そちらに話を持って行くこともできたと思う。西岡先生は僕らに内容を合わせていくと仰っていたので、もう少しこちらから聞きたい話へと方向転換ができればよかったのではないかと思う。

参加報告書

氏名：垣塚太志

所属：生命機能研究科

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

西岡先生の話聞いて、感じたことがいくつかある。

一つ目は、しっかりと情報を調べること。研究者に限らず、企業の方でも、新しいことにチャレンジするならば、論文を調べたことをさぼってはいけないということを改めて実感した。

二つ目は、世の中にいる成功している人たちは、失敗という考え方をしないのではないかと感じた。どんな結果になろうとも、その結果をうけて、次の行動に活かすということができるのであれば、振り返ってみてあれは失敗だったと思うことは少ないのではないだろうか。それは、思い通りにならないことがないという意味ではなく、物事が失敗という形で終わることが少なく、ちゃんとその結果は後に続いていくような生き方をしているのではないだろうかと感じた。

三つ目は、妥協しない姿勢を貫くことの重要性。西岡先生は、ビジネスの大事な場では必ず妥協せずにとことんやりぬいたとおっしゃっていた。今の自分には、妥協云々以前に、自分にとってこれが正しいという決断力に欠ける。なので、自分の決断にたいするこだわりもなく、優柔不断なまま終わってしまう。妥協しないという、シンプルな言葉を実行するだけでも、今の自分には足りないことがたくさんあることに気付けた。

西岡先生のセミナーを聞いて、これからは今自分が面白いと思うことを、しっかり楽しみながら、真剣にそれと向き合っていきたいと思った。

参加報告書

氏名：浦井 健次

所属：基礎工学研究科

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

資金を使う立場である「技術者および研究者」と、資金を生み出す立場である「経営者」の双方を経験された西岡さんの御講演は、自身に経験のない示唆に富んだ内容で、今まさに大学院で研究経験を積みながら将来を考える私にとって、今後の人生の在り方を考えさせられるものであった。西岡さんの経験は実に多彩で、そのどれもが多面的な教訓を持つものであったが、講演全体に通底するものとして「自分が確信するものを持って、相手に真摯に接する」という信念を持たれているように感じた。特に、常に相手に真摯に接するためには、「普段より少しだけ余分」に頭使い、人の気持ちに寄り添う努力を怠らないことが大切なのだと感じた。そうした不断の努力が、結局信頼につながるのであろう。西岡さんが多くの人を惹きつけるのも、この相手に対する真摯な思いがあってこそそのものだと思う。

感想・反省点・今後の改善点

企画側の意見として、講演者を招く場合、どこまでテーマを絞った内容を依頼・提案するのか、その判断が難しいと感じた。今回は、講演内容の大枠として「企業と起業」というテーマでいくつかの提案はしたものの、最終的な内容の殆どは西岡さんをお願いする形となった。西岡さんの積極的な姿勢と、話題・経験の多さに救われた部分があるように思う。事前に内容のレジュメ等資料を頂き、企画者らが事前に質問を準備しておけると、議論が活発になると共により理解が深まったかと思う。ただし、依頼する講演者の負担が増えてしまうことが懸念事項ではある。

参加報告書

氏名：酒井 智史

所属：生命機能研究科

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

西岡先生に話を聞き、「他人を説得、あるいは納得させるために、その事柄を自らが十分に理解し、はっきりとした証拠をもって説明することが大切である」こと、そして、分野に関係なく大学でそういった能力を鍛えることが今の私たちにとって大切であることを再認識した。

また、英語を学ぶことの大事さに触れ、その理由として、技術・科学等についての会話では通訳と利用するのは難しいこと、最新の情報を得るために原著の論文等を読む必要があること、日本国内においてもこれから先外国人の労働者と競う必要のある未来がやってくる、といった事柄を挙げられていた。

感想・反省点・今後の改善点

西岡先生自身の経験に基づいた、様々なお話を聞かせてもらえて非常に良かった。未来トークの時とは異なり、距離が近く質問をする時間も多くて西岡先生の考えを掴みやすかった。

しかし、とりとめなく様々なエピソードを聞くといった内容だったので、自分の役に立つものを掴もうと気を張っていないと、ただ楽しい話が聞けたなあといった感想になりがちかもしれないと感じた。

参加報告書

氏名：澤田 莉沙

所属：生命機能研究科

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

今回の講演では、“何事にも常に一生懸命に取り組むこと”と、“変化を恐れずに信念を貫くこと”の大切さについて改めて感じた。様々な業績をあげてきて、今でもベンチャー支援のための西岡塾塾長として現役で活躍している西岡郁夫先生の経験談や考え方、信念を聴くことができ、自分自身の新たな人生観の指標として取り入れることができた。

感想・反省点・今後の改善点

今回、事前に知らされていたイベント内容として「大学院生が考えるべき、企業・マネジメント・起業の現場について」とあったが、実際のセミナーでは、ほとんどが西岡先生自身のお話が多く、学生の身分で起業をするための心得などをあまり聞くことができなかったため、少し残念だった。私たち自身が、質問内容を予め沢山用意しておくなど、もう少し活発な議論ができたらよかったと感じた。せっかく用意したモスバーガーも、あまりフランクな空気を持ち出すのに貢献できてなかったと思った。

しかし、アドバイザリ企画のときに会った西岡先生とのコンタクトを大切にし、今回のようなイベントを立ち上げたのは、とても素晴らしいことだと思う。HWでは、普段ではお目にかかることが難しいような先生方ともコンタクトをとる機会を与えてもらえるので、その一つ一つの出会いを大切に、今回のようなイベントへと発展させていくことが履修生にとって成長の一つとなるだろう。

参加報告書

氏名：古林 太郎

所属：生命機能研究科・四方研

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

西岡先生といえば豪胆さや話術の巧みさが印象に残るが、四時間にも及ぶ長時間の対話の中で色々と新しい側面が見え、先生のこれまでの継続的な成功の根底にあった大事な要素をいくつか垣間見ることができた気がする。例えば、先生は徹底して対象についてリサーチし考え抜く類稀な勉強家であり、重要な判断を迫られる場面で見事にその知識とコミュニケーション能力を組み合わせ生きてきたことがよくわかった。

第一に大切な点は「攻撃的に学ぶ」ということ。我々学生は現在の立場を最大限活かして勉学に励めばよいが、例えば論文を読む行為一つとっても意識次第で得るものは大きく変わる。アカデミアに属する者の日常的惰性としてではなく、食欲に自分の研究目標とのリンクを探しながら読む、長所と短所を分析しながら批判的に読む、アカデミアの外へ繋げられる可能性を意識しながら読む、などの意識の有無で大きな差がつく。ラボの外へと学びの場を求めていく意味でも食欲さが重要である。

第二に、コミュニケーションの重要性をよく認識し、意識的に言動を変えていくこと。知識や経験を役立てる重要な局面は往々にして人と人との対話や交渉という形でやってくる。大事な場面では決して引かず、場合によっては強硬な態度で臨む。その一方では必ず相手の話をよく聞いて考え、相手を無闇に怒らせずにこちらの言いたいことを正確に伝える。このように状況に応じて適切に対応することは簡単ではなく、日常の各場面で常に意識をして反省し、毎日自分を更新していくことが重要である。

「良い方向に常に変わっていこう」という意識を新たにしてくれた西岡塾であった。

感想・反省点・今後の改善点

- 希望する学生の目標と現状を叩き台にして、西岡先生にアドバイスをもらいながら学生全員で未来に向けて討論するなど面白いかもしれない。
- 今回の表題は「学生のための企業&マネジメントセミナー」なのでその点においては少し趣旨がズレていたと思う。

参加報告書

氏名： 李 楽施 .

所属： 生命機能研究科 .

企画名： 出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

得られた知識や経験を記載してください。

「義理、人情、浪花節」という先生のモット。

「考えてばかりいても仕方ない、とにかく行動を起こそう、壁は自分自身なのだ」という先生からの贈り言葉。

感想・反省点・今後の改善点

勉強や議論した内容における良かった点や悪かった点など、感想や抱負を書いてください。例えば、議論の時間が短かったなどの企画に対する意見なども記載してください。

私は、先生が自分のキャリアパスをもとに、様々な経験談を私たちとシェアをすることにより、大事なメッセージを伝えているという話の内容の筋道がわかっていたのですが、私にとって聞き取れずにわからない言葉がしばしば出てきて、話の具体的な内容が理解できませんでした。そして、ほかの学生がじっと耳を傾けて、時々先生の話の面白さにひかれて一緒に笑ったり、最後に話の内容について質問したりするのを見て、自分の日本語能力の足りなさを痛感し（話を完全に理解できなかったため、皆と一緒に笑うことも、最後に先生の経験談について質問することもできませんでした）、自分が自分のこれからの人生に大変役立つものを逃していることを残念に思いました。

このように、今後このようなことの内容に幅広く日本語の語彙を取得すると決めました。

参加報告書

氏名：本谷 康平

所属：生命機能研究科・生命機能専攻

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

今回の企画では、企業で開発の仕事をし、管理職、経営者へと転身を遂げていくにあたってはどのようなことが必要であり、実際に西岡さんがどのように仕事をしてきたのかを伺うことが出来ました。また、アメリカなどの海外で実際に仕事をするにあたっての苦労や、それを乗り越えるにはどうしたら良いのかという話も伺うことが出来ました。

感想・反省点・今後の改善点

西岡さんとあのような場で、直接話をする事自体が大変貴重な体験であり、自分が今後活動をしていくにあたって大変参考になる企画になったと思います。特に、仕事に関しては、「手を抜かないこと」が大切であるということ、仁義や人とのつながりが重要であるということなどは、自分の現在の活動においても重要であると感じました。

一方、西岡さんの仕事の軌跡を追うのに時間を掛けすぎており、ベンチャー企業についての話などの比重はかなり低くなってしまっていたと感じました。今後、同じような企画があった際には、経験談を聞く部分とそれ以外との時間配分を調整した方が良いかもしれません。

参加報告書

氏名：松尾康平 .

所属：生命機能研究科 .

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

今回の企画で最も心に刻みたい一言は、「質問はバカでいい」という一言です。講義やディスカッションなどでわからないことがあるとわからない単語や内容への疑問が出るが多々あるのですが、私は「こんなことを聞いて初歩的な簡単なことだったらどうしよう」ですとか「流れを妨げないだろうか」などいろいろ考えてしまい結局尻込みして質問しないことがあります。しかしながら外国の企業が作っていた略語を会社役員自身が覚えていなかった、というトークで言われたこの一言が僕に安心を与えてくれました。

また、男の料理三大原則や欠かしてはいけないGNN(義理、人情、浪花節)といった非常に特徴的かつ面白い言葉を披露していただいたのでこちらのほうも覚えておきたいです。一流であることに胡坐をかいてしまうよりは上を目指し続ける二流のほうがよいとの言葉も、大阪大学と東京や京都を比較しているようでウィットに富んでいて愉快でした。

感想・反省点・今後の改善点

どんなふうに講義を進めていくのかというのが最初によくわからなかったのが残念でした。しかし西岡先生の話すエピソードはどれも興味深く、その半生を紹介していただいた後に質疑応答をするという形式は少数参加型のセミナーであることに加え先生のキャラクターにもあっていたように後から感じました。

僕自身の反省点は、「質問はバカでいい」という言葉にいたく感銘を受けたのにもかかわらず先生に対して質問を出すことができなかったことです。もしこのような機会があればまた参加したいと思います。

参加報告書

氏名：富永 登夢

所属：基礎工学研究科

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

西岡先生のお話を聞いて、特に印象的だった点は、相手を説得させるために何をすべきかを大切にされている点だった。ここで挙げられたポイントは2つある。1つ目は、自分で本質から納得できていること。相手に説明して理解してもらうためには、まず自分が理解できていないといけないからである。2つ目は、聞いてもらえる話し方をする事である。どんなに論理的で正しい内容でも、嫌味な言い方をされると人は話を聞かない。不愉快だからだ。先生によれば、お笑いで言うところのツッコミを相手にさせる程度の際を見せると、会話は円滑に進むのではないかとのことであった。

HWIPでは、異分野の学生や先生方と議論をする場面が多い。先生から頂いたご指摘を参考に、今後のHWIP学生生活にフィードバックしていきたい。

感想・反省点・今後の改善点

個人的な反省点としては、もっと質問をしないといけないと感じた。質問は、相手への興味を示すことである上に、議題を深く掘り下げるきっかけにもなるからだ。西岡先生も仰っていたことだが、賢い質問をする必要はないので、今後は躊躇なく聞きたいことを聞く姿勢でいようと思う。

この様な素晴らしい機会を提供して下さった横田先輩、垣塚先輩、ご協力して下さった先生方、ありがとうございました。

参加報告書

氏名：清水天馬

所属：生命機能研究科

企画名：出張・西岡塾

開催期間：2014年5月24日

企画で得られた収穫

博士課程を卒業した人間の論理的に考え独自に何が重要かを考え決定する能力、プレゼンする能力、そこに英語の能力が加わることでとてつもないアドバンテージが得られるということが西岡先生の経験、またその話し方からひしひしと感じられた。そしてまた、日本で日本人がそのような能力をもっている人間が少ないために日本はとてつもなく美味しい市場として外国人から狙われていることも理解できた。西岡先生はこれからは外国人が大量に入ってくるためリーダーシップをとる人材は対抗できるようにこれらの能力を身につけ他の日本人を導かなければならないと考えているのだと理解した。真に社会を変えたいと思うならこういう視点を常にもつことが大切なのだと思う。

感想・反省点・今後の改善点

未来トークで先生が話された内容とかなり似通っていたので、時間も4時間と長かったしもう少し専門的な話があってもよかったのではないかと思った。具体的に西岡塾から起業した人の話などがきければ起業、マネジメントについての具体的な想像ができてさらによかったかもしれない。西岡先生の哲学について面白い話がきけたのはとても今後の参考、目標になるいい機会だったと思う。

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム

学生革新企画提案書

企画名	出張・西岡塾
代表者	氏名: 横田 将志
	所属研究室・学年: 生命機能 柳田研 M2
	電子メール: masa.yokot@gmail.com
計画立案 メンバ 1	氏名: 横田 将志
	所属研究室・学年: 生命機能 柳田研 M2
	電子メール: masa.yokot@gmail.com
計画立案 メンバ 2	氏名: 垣塚 太志
	所属研究室・学年: 生命機能 柳田研 M2
	電子メール: t.kakizuka@gmail.com
計画立案 メンバ 3	氏名: 浦井 健次
	所属研究室・学年: 基礎工 石黒研 M2
	電子メール: urai.kenji@irl.sys.es.osaka-u.ac.jp
計画立案 メンバ 4	氏名:
	所属研究室・学年:
	電子メール:
計画立案 メンバ 5	氏名:
	所属研究室・学年:
	電子メール:

開催場所	施設: 大阪大学 情報科学棟 B115
	住所: 〒565-0871吹田市山田丘1-5
	連絡先: http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/access_contact/
日程	2014年5月24日(土) 15:00 ~ 19:00
経費	総額: 69,640円

学生革新企画の目的

次世代のリーダーの活躍の場は、産官学と幅広い。今回のセミナーでは産業の立場として求められるリーダーになるために大学院生の今、しておくべきことを考えたい。工学博士を持ち、かつインテルという大企業の日本法人の社長経験のある西岡氏に大学院生の間にしておくべきことというテーマでご講演をいただき、自分たちの今を見つめなおすとともに、進路について考える。

また、企業の中でリーダーとして活躍された経験を交えたお話を聞くことで、研究活動や卒業後に企業でプロジェクトを運営するときなど、今後様々な場面で集団を率いる際のリーダーシップの取り方に生かしていく。

さらに、現在、ベンチャー企業の支援もされている同氏に起業についてお話をさせていただくことで学生の持つ起業の夢を現実のものとするための一歩としたい。

セミナーは講義形式の時間と、座談会の時間を設けることで参加者の質問を西岡氏に気兼ねなく聞ける場としている。

学生革新企画で期待される収穫

1. 実際にリーダーシップをとった経験を聞くことによって集団の率い方を学び、今後の研究活動でのリーダーシップの取り方を学ぶことができる。
2. 卒業後の進路を考える良い場となる。
3. 起業に関してお話をさせていただくことで、学生による起業の第一歩となる。
4. 今後、2期生を含むセミナー形式の学生主催の企画が増えていくきっかけとなる。

スケジュール

5月24日

15:00～ 当日の流れ、ガイダンス

15:05～ 西岡氏によるセミナー

大学院生のうちにしておくべきことという題で

企業、経営、起業に関する講演

17:30～ 軽食を食べながらの座談会

～19:00

代表者・計画立案メンバが過去に開催した企画

実施年度	企画名（参画者名）	実施内容
2013年	HW マナー講座 (澤田 莉沙) (横田 将志) (日浅 夏希)	プロのマナー講師を招聘し、独学では学ぶことのできないマナースキルを実践演習を通して学んだ。

